

【安芸太田町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 . 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

(1) 計画の背景

急激に変化する時代の中、学校教育には一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和 3 年 1 月）及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められ、一人一人の学びを充実させ、協働的な学びを深めるための手段の一つとして ICT 機器の活用必要性が示されている。

本町では、少子・高齢化が進み、町内学校の児童生徒数の減少が続く中、令和 6 年 7 月に教育大綱を定め、一人一人の児童生徒を取り残すことなく、元気で、毎日意欲をもって生活をし、将来、自分の人生を自分で決められる、必要なくましさをも身につけることが出来る「安芸太田町らしい学び」を確立すべく、取組を進めている。「安芸太田町らしい学び」の確立に向けた取組を進め、本町で目指す子どもの資質・能力の育成のためには、「多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤」「時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化」「空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）」といった ICT の強みを生かし、ICT の活用を推進していくことが必要であると考えられる。

(2) 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「安芸太田町らしい学び」の確立を目指し、これまでの取組を基軸とした教育・学びを推進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を深化させるため、1 人 1 台端末を効果的に利活用し、次の 2 点の学びを目指す。

理解度、学習ペース、興味・関心など個々の児童生徒の実態を踏まえた指導・支援により、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整する学び

「自ら課題を見つけ、それを解決する力」を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く、協調的な学び

2 . GIGA 第 1 期（～令和 5 年度まで）の総括

(1) 整備等の状況

本町では、GIGA 第 1 期（令和 5 年度まで）に次の整備等を実施した。

【整備の状況】

時期	整備内容
平成30年	先行導入135台（教員機含む）
令和2年	町内LAN整備
令和2年度末	GIGAスクール構想により1人1台端末追加導入 追加245台
令和3年度	1人1台 本格稼働
令和5年度	先行導入端末更改（R7年度まで利用） 校務支援システム導入、ネットワーク統合、職員端末更新

【導入システム概要】

平成30年度の端末導入時より、授業支援システムを導入し、また同時に全普通教室に大型提示装置の整備を行っており、早い段階から授業でのICT活用に取り組んできた。

その他、各学年段階によりプログラミング教材やソフトを活用できる環境を整え、令和5年度にはAI型ドリルを導入し、児童生徒個々の学習進度や興味関心に合わせた学びのためのツールとして活用している。

また、児童生徒と教員の情報共有を行えるクラウドツールとして、eポータルサイトや業務支援アプリケーションであるMicrosoft Teamsを利用できる環境を整備し、学校内の情報共有を行っている。

【その他の整備】

安芸太田町が、平成21年度から10年以上継続して東京大学（現在一般社団法人教育環境デザイン研究所）と連携して取り組みを進めてきた協調学習において、ICTを活用した発話記録分析による授業の見取り、WEB授業配信など「主体的な学び」の評価について研究を進める先端技術導入実証事業へ参画しており、ICT技術を活用した授業改善にも取り組んでいる。

また、旧PC教室を児童生徒が端末を持ち込み、協調学習が行えるスペースであるALルームへ整備した。

【活用推進の仕組みの実践】

1人1台端末の利活用を推進していくために、教員に向けたICT活用研修を毎年行っており、導入ソフトの操作研修や、セキュリティ研修に加え、各学校の活用状況等を共有できる場としている。また、オンライン配信やアーカイブ動画を活用することで、容易に研修に参加できる環境を整えている。

また、ICT支援員による個別研修の実施や、ICT支援員に各校を巡回して訪問させることで、教員のリテラシーの向上にも努めてきた。

（２） 成果と課題

【成果】

計画的に整備を進め、全児童生徒に1人1台端末を整備することができた。

AIドリルや学習支援ツールの導入など、ソフト面の充実を図ることができた。

セキュリティ対策を講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合を進めることができた。

【課題】

ICT 環境の整備に加え、教員研修を実施しているが、授業における ICT 活用や校務 DX の推進状況については、教員間・学校間で取組の差が生じてきている。

授業における ICT の活用については、資料提示に活用されることが多く、児童生徒の意見の交流等、学びを深めるための活用に課題が感じられる。

ICT の活用について、児童生徒の意識と教員との意識の差が見られ、教師と児童生徒が ICT 活用の目的等を共有しながら取組を進める必要がある。

3 . 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末の利用を継続し、さらに児童生徒にとって充実した端末の利活用となるよう、各学校及び関係各課と情報共有しながら、次の 3 つの視点での方策を講じる。

(1) 1 人 1 台端末の積極的な活用について

1 人 1 台端末を積極的に活用するため、教員の ICT 活用指導力を向上させるとともに、取組の情報共有や蓄積を図ることを目的として、次の取組を行う。

ICT の活用に係わる研修の実施とその充実

支援体制の確立

取組等の情報を共有するための体制の整備と活用の推進

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

一人一人の児童生徒の実態に応じた学びと、多様な他者との協働した学びを一体的に充実させるため、学校での ICT を活用した学びの機会を充実させるとともに、授業改善の取組を深化させることを目的として、次のことに取り組む。

授業における学習支援ツールの活用促進

A I 型ドリル等活用促進

学習データの活用促進

(3) 全ての児童生徒への学びの保障について

不登校の児童生徒や支援が必要な児童生徒等に対し、1 人 1 台端末を活用することで学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒の学習機会を確保するため、次のことに取り組む。

児童生徒の情報共有のための校務支援システム等の活用

授業配信や教育相談におけるオンラインの活用